

導入機能③ 広場(憩い・交流)機能

(1) 広場の現況・課題

- ・広場は、ロータリーの北東側に位置し、ベンチ・パーゴラ・池・公衆トイレ・植栽等が設置されている。また、広場から少し離れた位置（タクシー乗り場付近）に、喫煙所が設置されている。
- ・ベンチでくつろいでいる人が多少見られるものの、長時間滞在している人はほとんど居ない。
- ・市民・駅利用者アンケート調査をみると、東口の休憩施設（ベンチ、緑地など）について、「満足」・「やや満足」と回答された方は全体の約2割、「やや不満」・「不満」と回答された方は全体の約4割であり、不満に感じている方が比較的多い。また、東口周辺に求められている広場としては、「快適に待ち時間を過ごせる広場」が最も多く、次いで「緑豊かで居心地が良い広場」、「災害時等の避難場所となる広場」が多い。

■広場の現況



①噴水



②公衆トイレ



③池

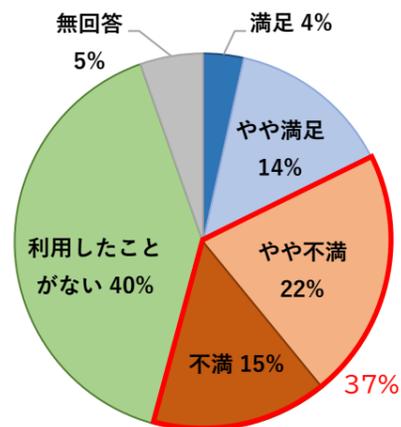


④ベンチ・パーゴラ

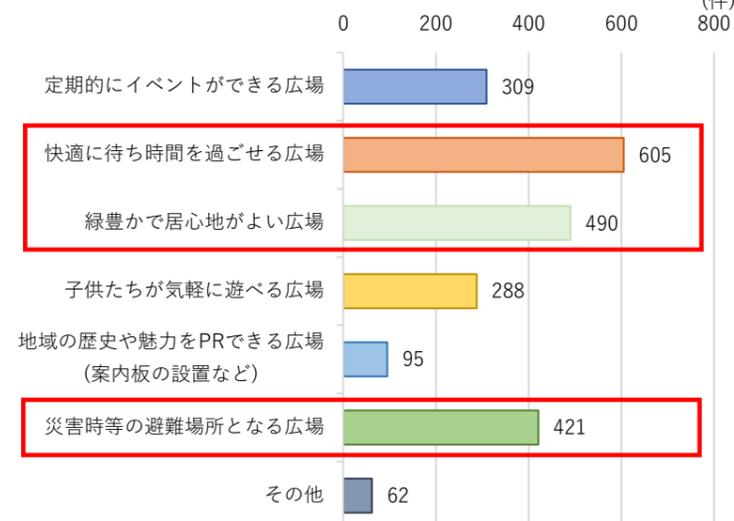


■市民・駅利用者アンケート調査結果

●東口の休憩施設（ベンチ、緑地など）の満足度



●東口周辺に求められている広場



(2) 広場の整備方針

現在、守山駅東口に設置されている広場については、待ち時間を快適に過ごせる施設や多世代が気兼ねなく交流できる場等が不足しており、快適性のある空間は形成できていない。アンケート調査の結果からも、憩いや安全に繋がる機能等を求める意見が多いことから、東口再整備においては、多くの人々が「集まり・出会い・交流」できる空間として、多様な憩いやにぎわいが生まれる広場を整備する。

a) 憩いの場となる居心地の良い広場

- ・東口の魅力である落ち着いた雰囲気を活かすなかで、人が自然と集まり、憩える空間づくりを行う。
- ・ベンチやテーブル等を設置し、散歩中や待ち時間などに、ゆったりとくつろげる居心地の良い広場づくりを行う。
- ・地場産材（地域産木材等）の利用や樹木の植栽による緑の活用など、守山らしさが表現された市の玄関口にふさわしい空間づくりを行う。



b) 子どもから大人まで多世代がワクワクする広場

- ・子どもが走り回ったり、寝転んだり、様々な体験ができる楽しい広場づくりを行う。
- ・東口周辺以外からも行ってみたくなるような空間を形成し、子どもだけでなく多世代の人が集まり、交流が図れる広場づくりを行う。



c) フレキシブルに活用できる広場

- ・単純なオープンスペースとして利用するだけでなく、賑わい創出に向けたイベントなどの多様な活動ができるよう、フレキシブルに活用できる広場づくりを行う。
- ・災害時に近隣住民の一時避難場所として活用するなど、安全安心に寄与する広場づくりを行う。



d) 周辺施設と連携した一体感のある空間づくり

- ・複合商業機能やワークプレイス機能、交通結節機能（ロータリー・周辺道路など）と有機的に連携し、広場を中心とした一体感のあるエリア形成を図る。
- ・オープンカフェの設置や企業の公開空地との連携など、広場と各機能（施設）の空間を適切に共有し、多様な用途で活用できる開かれた空間づくりを行う。



(3) 他市の事例

JR 長岡京駅西口広場公園 [バンビオ広場公園] (京都府長岡京市)

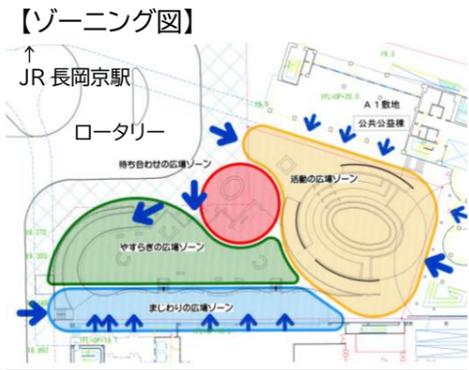
- ・JR 長岡京駅西口では、市街地再開発事業によって商業・公益施設や住宅施設の他、駅前広場(ロータリー)や広場公園、都市計画道路等の公共施設を整備した。(工事着工～竣工：平成 15～17 年度)
- ・ロータリーに隣接して配置された広場公園のコンセプトやプランは、市民の声を反映させながら取りまとめた。

名称	長岡京駅西口広場公園 [バンビオ広場公園]
面積	約 2,300 m ²



■広場のコンセプト・基本構想図

【コンセプト】
市民とともに成長し
長岡京の新しい文化を育む
交流の舞台



■広場の利活用例



名鉄豊田市駅 東口まちなか広場 (暫定広場) [とよしば] (愛知県豊田市)

- ・名鉄豊田市駅東口では、既存の駅前広場を刷新して、ロータリー機能の充実を図る整備と、歩行者が楽しめる連続性のある広場空間の整備を行っているところである。(整備期間：令和 5～8 年度 (予定))
- ・広場空間は、市の玄関口としての立地を活かしたイベントに対応できる空間と、日常的な憩いの場としての芝生広場を整備する計画としている。
- ・駅前広場の再整備にあたり、令和元年 9 月に暫定的な広場空間を整備し、将来の広場のあり方を具体的に検証するための実証実験を約 4 年間行った。

名称	豊田市駅東口まちなか広場 (暫定広場) [とよしば]
面積	約 1,140 m ² (芝生広場 約 560 m ² 、舗装広場 約 430 m ² 、 拠点施設 約 150 m ²)

■暫定広場 [とよしば] のレイアウト図

公益的機能 とよたまちなカラポ(ラポ)
豊田市に関する資料をより魅力的に見せる方法としてアート・デザインを掛け合わせ、周辺施設との連携を図り、人の流れを生み出します。展示を画像等で参照しやすい履歴とし、都市設計の背景とすることで、将来的な中心市街地活性化に寄与するラポとしての役割を果たします。

公益的機能 スタジオ
WE LOVE とよたサポートによるYouTube配信番組「WE LIVE!」や、地元エフエムラジオ局とコラボしたラジオ中継など、情報発信系のコンテンツを備え、収録や動画、写真撮影といったスタジオ機能として活用します。

公益的機能 とよた駅前工作室(アトリエ)
豊田の駅前でモノづくりの場を提案。地域や生活に根ざしたモノづくり空間を創造していきます。楽しいモノづくり・モノおしをサポートスタッフがアドバイスします。

公益的機能 芝生広場
芝生広場の日常使いは、子どもたちや親子づれがピクニックで利用できるよごしの出しなどで潜在が増え、広場に愛着を持ち、ゆくゆくは自分たちの広場と思ってもらえる設えをします。また、朝活で体操や太極拳などでみんなが参加でき、健康増進につながるコンテンツも積極的に取り入れていきます。

収益的機能 〇七商店(マルナショウテン)
飲食ではカウンターによる対面販売など、気軽に利用しやすい雰囲気とスタッフとの会話も生まれ、人と人のつながりができるよつにします。

収益的機能 〇七商店(サロン)
連動した会場作りを可能とし、動かしやすいテーブルや椅子を使用し、臨機応変なレイアウトを可能とします。パーテーションを階段は設けず、開放的な空間とし、人々の交流の促進を図ります。

■豊田市駅東口駅前広場整備イメージ図



■暫定広場 [とよしば] の利活用例



(出典：豊田市 HP)